

千代田区紀尾井町3-23
株式会社文藝春秋「週刊文春」編集部内
上 杉 隆 様

平成21年3月5日
衆議院議員安倍晋三事務所

TEL

FAX

(担当:)

公 開 質 問 状

1 (上杉隆氏の回答書非公開の要望について)

株式会社文藝春秋が発行する週刊誌「週刊文春」(2009年2月26日号150頁ないし153頁の「安倍、福田・・・ひ弱な二世をつくる『後援会』」と題する貴殿の署名記事(以下「本件記事」という。))について、2月25日付通知書で質問をしましたところ、3月2日に回答書が来ました。

この回答書は貴殿ではなく、貴殿に事実確認をした週刊文春編集部名義で作成されており、かつ、「当回答は、未公表の著作物ですので、そのままHP等で引用、公開されることはお控えください」とのことでした。

しかし、週刊誌で記事を掲載し全国の読者に事実無根の誤解をさせたにもかかわらず、記事の弁解は公表しないでほしいというのでは、いかにも身勝手無責任な理屈というほかありません。自らの説明責任からは逃げ回る姿勢はいつもことであり驚きはしませんが、安倍の受けた名誉棄損の汚名を晴らすためには、「回答書」そのものを掲載することはしませんが、上杉隆氏からの聞き取り結果回答に対しては正確に引用した上で反論をすることとします。

2 (本件記事の虚偽部分)

(1) 上杉氏は、本件記事のリード部分において、「『お腹が痛い』とって政権を投げ出した安倍元総理でも、母・洋子が守る地盤は微動たりともしなかった。政治家にとって不可欠な『選挙の洗礼』を実質的に回避していることが二世のひ弱さの原点なのだ！」と断定しました。

(2) その上で、上杉氏は、本件記事本文中「母・洋子と一緒にステージへ」との小見出しの後に、平成20年1月27日に下関市で開催された「あべ晋三 新春の集い」では

(あ) 安倍夫妻のほかに母・洋子の姿も見える。いや正確に記したほうがいいかもしれない。安倍母子がステージの中央に並び妻の昭恵は隅に立っている。

(い) 政権を投げ出した子のために、母がマイクを握る。圧倒的な拍手。丸で洋子のために後援会が存在するかのようなワンシーンだった。

と記述しました。

しかし、当事務所で客観的な資料をもとに確認したところ、当時の事実を「正確に記す」のであれば真実は次のとおりです。

すなわち、

(ア) 安倍洋子が登壇をしたのは「乾杯」と「万歳三唱」の時だけそのほかは降壇していたことはあることは当日の式次第等で確認済みです。また、立ち位置は、いずれの際も安倍晋三の隣に安倍昭恵が位置し、安倍洋子は列席者の一番右端に位置していたことは当日の写真等（資料1及び2）からも明らかです。

(イ) また、「乾杯」は下関市長が、「万歳三唱」は自民党下関支部長が発声しているのであり、いずれの際も安倍洋子がマイクを握った事実がないことも当日の式次第及び写真等で明らかです。

(3) さらに、上杉氏は、本件記事本文中で、安倍の最初の選挙において

(う) 母の洋子自らが陣頭指揮を執って、大選挙キャンペーンを展開した。

(え) 二千人以上の収容可能な巨大選対事務所を設営し、安倍派秘書を

山口に送り込んで、ローラー作戦を実施したのだ。
と記述しました。しかし、

(ウ) 選挙は地元議員や後援会の人たちが中心になって行っていたくものであり、候補者の親族はただ選対事務局の予定と指示に従うだけの立場であることは選挙に関係した人間であれば普通に知っていることです。安倍の初陣も当然のことながら安倍洋子は選対事務局の作成した予定と指示に従うだけでした。

(エ) また、2000人も収容できる選挙事務所の建物があるわけではないことは常識で考えれば分かるはずです。また、安倍の初陣は中選挙区制で同一選挙区に同派閥の候補者がいる以上、清和会（当時のマスコミは「三塚派」と呼称しており、いずれにしても上杉氏の安倍派との記述は事実と反します。）安倍派の秘書が一方陣営のためにローラー作戦を行うことができないであろうことも選挙に関係した人間であれば普通に考えられるところです。実際、安倍派の秘書がローラー作戦を行った事実はありません。

3（上杉氏の弁解と求釈明事項）

(1) これに対し、週刊文春編集部を通じた上杉氏の弁解は次のとおりです。

(2)（上記（あ）について）

上杉氏の回答書によれば「筆者の上杉隆氏が現実に見て確認した内容をそのまま報じたものです」とのことです。しかし、上杉氏の弁解は客観的な記録である資料1及び2の写真とは明らかに異なるものです。

《求釈明事項》

安倍洋子及び安倍昭恵が一体本イベントのいかなる場面で上杉氏が主張される立ち位置になっていたのかを明らかにされたい。

(3)（上記（い）について）

上杉氏の回答書によれば「安倍洋子氏の声がマイクを通じて会場に流れたのは紛れもない事実であり、主旨において記述に何ら問題はないと考えております。」とのことです。しかし、上杉氏の弁解は客観的な記録である資料1及び2の写真とは明らかに異なるものです。

《求釈明事項》

- 1 記事本文では「母がマイクを握る。」と明確に記述しているが、本回答書における弁解は「安倍洋子氏の声がマイクを通じて会場に流れた」「主旨において記述に何ら問題はない」などと奥歯にものもの挟まったような言い回しになっているが、いずれにしても「安倍母子がステージの中央に並び」「母がマイクを握る」という場面があったとの弁解と理解してよろしいか。
- 2 上記場面は一体本イベントのいかなる場面でのことなのか特定されたい。

(4) (上記(う)について)

上杉氏の回答書によれば、安倍洋子の陣頭指揮というのは「故・安倍晋太郎代議士の未亡人として、また、安倍晋三候補の母として、安倍陣営の中で最高の地位にあった安倍洋子氏が、安倍晋三氏の選挙についてお願いして回ったこと」を指すとのこと。しかし、「陣頭指揮」というのは

〔名〕 (スル) 軍隊の先頭に立って指揮すること。長たる人が直接現場に出て指揮すること。「社長みずから一する【大辞泉】

ということであり、「安倍洋子氏が、安倍晋三氏の選挙についてお願いして回ったこと」は陣頭指揮に該当しません。また、安倍洋子が「安倍陣営の中で最高の地位」にいたとのことですが「最高の地位」というのはいかなる意味なのかも分かりません。

《求釈明事項》

- 1 安倍洋子が選挙において「直接現場に出て指揮」をした具体的事実を説明されたい。
- 2 最高の地位の意味を説明されたい。

(5) (上記(え)について)

上杉氏の回答書によれば、「当時のメディアで報じられている通り」とのことです。

《求釈明事項》

2000人収容できる選挙事務所の建物があるということと、安倍派の秘書がローラー作戦を安倍の初陣の際に行ったとする当時の報道資料を

ご教示ください。

4（上杉氏の説明責任）

上杉氏が報道を業とする以上、自ら取材をして報道した内容については報道をされた者からの求釈明にきちんとした説明をすることが求められることは論を待ちません。一方的に虚偽の報道をして、あとは頬かむりということになれば今後の記者生命を自ら否定するに等しいからです。記者の矜持をもって回答されるよう求めます。

以上の求釈明に対する回答を平成21年3月9日正午までに文書（当事務所宛のFAX送信でも可）でされるよう通知します。

《添付資料》

資料1 写真（乾杯の際）

資料2 写真（万歳三唱の際）

以 上